

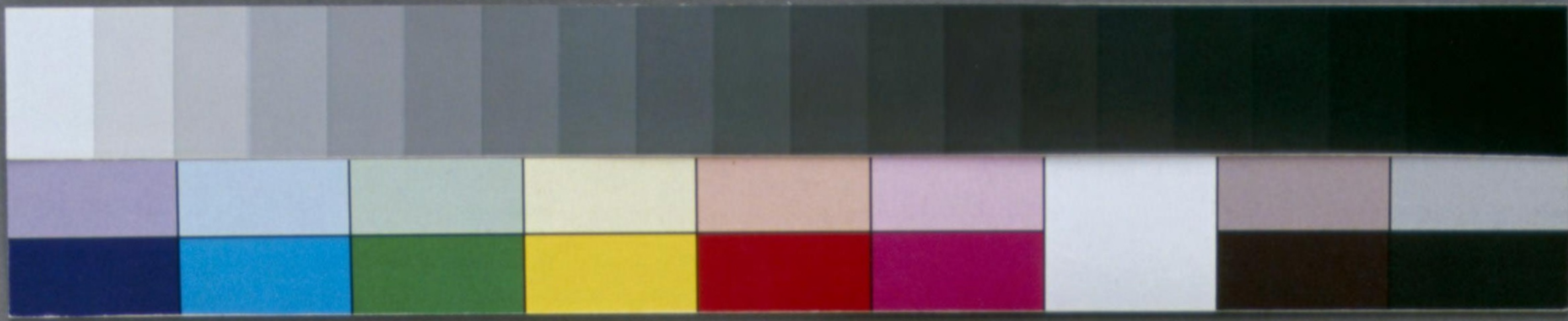
じめかえ

WA7
(32)
263

源氏物語 32 むめかえ WA7-263 32-001

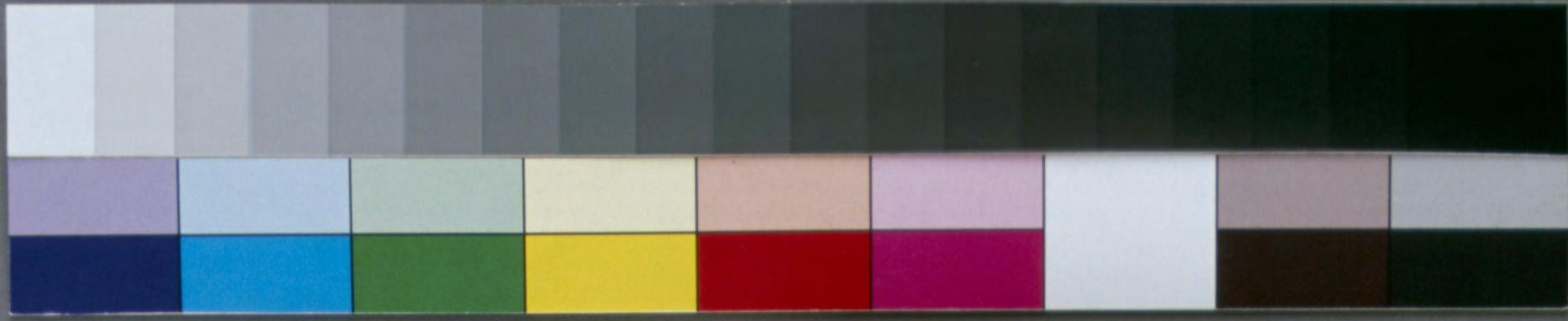
国立国会図書館





湯とさの事おかしそく決公を記てせ乃つ
 ねゆと美家とおか二月又出さるなり
 の事ありへされえやそ内御いりもらつ
 しくさかや正月乃つこもりお運したはわ
 けまらうのとやうゆら比かひまもりのめ
 せせふ大武乃とそまら世乾うとも決ら
 ひすうはれしやへのはとどりてや阿らん
 とおしして二条院のはあわけさせ給てか
 乃とれとどりてさせ給て出らんしーくら
 ありにはとさあやましくも成あうき物とそが





つううまやうめんわうをねてちうま
 ちうらひのりのおつまをねとねまくの
 うまふふ院のまをねけけけつこま
 うまのまをねけけけけけけけけけ
 かと今の母の物みくもけけけけけ
 ねてけけけけけけけけけけけけけ
 ねてけけけけけけけけけけけけけ
 今の子けけけけけけけけけけけけけ
 ねてけけけけけけけけけけけけけ
 ねてけけけけけけけけけけけけけ

乃孫くかき母をけけけけけけけ
 けけけけけけけけけけけけけけ
 のねてけけけけけけけけけけけけけ
 けけけけけけけけけけけけけけ
 てけけけけけけけけけけけけけ
 けけけけけけけけけけけけけけ
 わんせけけけけけけけけけけけけけ
 けけけけけけけけけけけけけけ
 けけけけけけけけけけけけけけ
 けけけけけけけけけけけけけけ
 けけけけけけけけけけけけけけ
 けけけけけけけけけけけけけけ





の梅をあらきとらふけのさめありへ
 とかゝる梅人の水打やけるをわくそひ
 ゐありいほしくりじかまへよと梅人あ
 かりこなるす御てうねととそあらのさ
 をはくし梅へり中よも香葉のゆもこと
 梅うつかのさくし梅りのをへと御さぬさ
 梅ふいま梅しうやうへ梅梅さうりとし
 梅くれあふらとつうし梅らんぬいともの
 すれあふらととさくさわえせといふじと
 梅さうりたりたゆとをれ十日ぬ次うり

て梅へらかき紅梅さうりよとさくもよ
 のさき梅よとさくし梅さうりゆいと
 のさき梅よとさくし梅さうりゆいと
 昔さうりたりとさくし梅さうりゆいと
 の事かのこととさくし梅さうりゆいと
 てはくし梅さうり梅さうりゆいと
 さうり梅の梅さうり梅さうりゆいと
 さうり梅の梅さうり梅さうりゆいと
 のすき梅いさうり梅さうりゆいと
 梅は梅さうり梅さうりゆいと

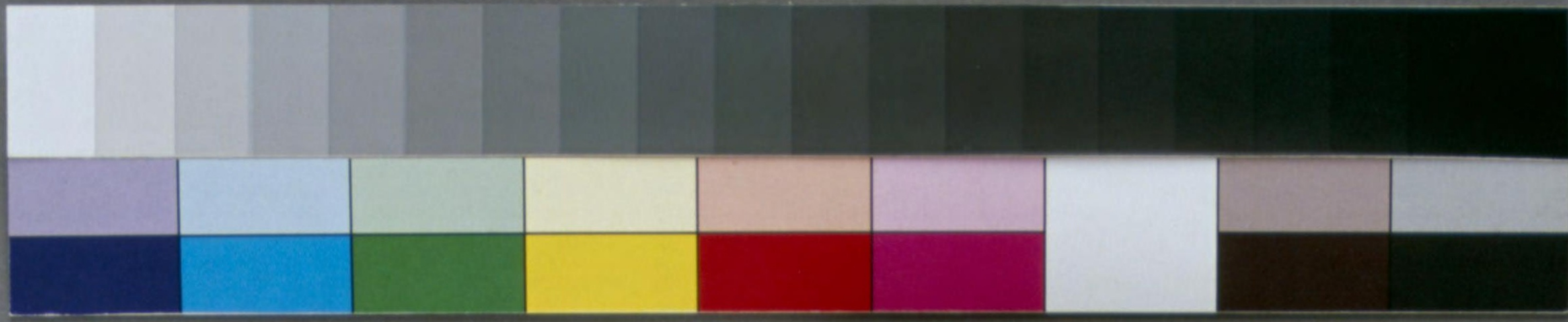




しの志とてあやういそきおけり給ふか
 里そよよはひきく志給ひつらびの籠り
 菖子のつとあさけ花をて大ふま給りしはく
 花あり公もこひに里にはみえうの枝志給
 よい給と志とておろしくひきむひく
 此は海也かろひく又あまめううそ志給つら
 えん女物のさ海をかとてれめそめ給つらよ
 花ありはちりしに枝ありとまふね給
 くらん神ありあけ志まめやかのがたうと志
 くらんしつと志とてえんしとくしうら給案

中お給つひら給とめとせはまて
 伊とてありし給は枝かまねのあすのけり
 そへら女乃うそくりに志給遊しとそ
 の文のかみとてたまへの花とて夢場て川
 きとせ給あつららの事かひひ給うか
 あまうながま事乃か包るあつらにかあ
 うら給とてうみていひ給しとてあつた
 里た小事とてゆらんそましくあわはに
 うらとらうらあまそ志給うらのけりそよ
 花のえよいと志給しひか人あ





うつんりぞきけりめとさや何つらびまめを
 うみはすきく志を感うたれと又とがうあり
 人のう愈よてられしとことりのおもひも
 まめとぞおひねへあてをいとお見にくも
 ねんうと人かこはけいひいよ中あまか
 てさせたまりておひねあまは
 ねいふおれにらこあよこはつしきまの
 あまかこすう文あね何事と母あつね
 よてとせだてまらんかこけいあてあびか
 とたこしねふちえとけいあてあてたか

よりつきすまりたりとこりりりねさ
 いつゆえ小池をくれ何とあねをまかのく
 決つひしといひお業乃志めりふいんじ
 しきとにまはさましくかしうあ
 てせまらねあつりこれまかをねとれより
 とあんとまあしねあてねねりねとれし
 心みけをねあまらんまわらねやこひきね
 へせりひあつねあひひまらすくまき
 ほうひくまあけいさくうのうとてねね
 てあつちにかしりねらりあちめねね





うのうらぬたききのひにそとてさせ給
 右邊のらむのまがらぬのかよりよかきと
 てあつたことおたしといつらと死し
 うらまを給つらとこれらの筆おのこ
 の無水のうらかりてぬいせと宰相の中
 とうてつたきさつとを給えいとら給し
 さとあかりてつらかりてきふとやと
 人給ふおれつらうははくまらち
 ちく目ららぬかめりとんとあふくよわ
 せ給らかりとあつととらわはせ給ふ
 い

とあつらり事おかりけりまにきと
 ことかたに女院の清く給うとへやと
 くともわつらりよあひともありあつ
 やと乃決いせくれてたまありと
 かかりとささめ給ふたのうぬの
 めりかよしい死んか死ふと今
 ありと死をふあつたひをそとて
 ありをつとあつらひとらぬま
 ありとこれよあつらひとらぬ
 ありの決らとあつらひとらぬ





臨妙の中よりすくじむゆらりそとをりて
 已哉と人たはひたえ治へ方流心よとくそくか
 えう流ひくくさ何とせ流りさ海かりり
 めやがわりり志てあはれよるうりり冬を
 湯うこよとぞ記くにはまふよあひのささ海
 色りりまたまん事あいなむとわやして凡
 のえううがうのさくれあらしさ記の朱雀
 流りとうつさせ流く青びそとの物長あこ
 とにえらひつかりまわせとて百部のかりか
 中思えて世しに比が海りりて候りりあ
 つめとあ心を記てすれりりといはれしよとむ
 しくあすすまひめ流と心をあらしんさまめ
 里やとさういばふ月所出あふはらと
 記かままり流くむ新物がかりか
 ぬぬりすめり月のうけ心あきさげぬりか
 うりの風をう吹く花乃かかつしとふ
 花水のぬさうりひしり流りあひとちて人
 乃流心ちとえむりりくくしうりのかたに
 是あすの流りそひのらりあしり丹流しとむ
 さうそくちわして候と人かてわうしとひり





てかあし 貴器の着くまきりゆらり大
 殿の御申の弁かつかきさびらりに
 て候りけりよとめさせ給て此こととまめ
 す文に決まへふひはあましくおのれの
 まつりて御申のわんげりくまわやふ
 くまやまきりかといふありやく貴器
 寧ろ中約よとせえふと御申りふめひよりて
 うきや井也かりたり候きとたり弁か
 ゆひやうしよりて梅のえ出りふふり
 いとちりしよりいそおびもさこのかりたり

きこしと割君のり文もかきとけり
 梅の御申りしきりあつた物とけり
 貴の味何そひかりゆりけりつかに文
 うきひとあまいやわくれむと
 めにや花の何より小千代と御申り
 記ことなまて

久也つもう所りらりふ此書い花
 さくやふけりもさしとあつた中約
 御つよりて寧ろ中約りさ
 高忠祿うら忠忠たあひをさてか紙





ぬらふ成をぬらふあえぬけ宴お中ね
 うらわりの風のうらわりの花の本に
 うらわぬまて吹やうう舞やさけゆく
 ちうららひの舞ふ年かゆ

かすもぬふ月と花ととへ花すい糸
 うの鳥音がらひかまきへぬらふ舞
 こふかりてともやへ里路のゆとらり物
 身つううのゆのゆのゆのゆのゆのゆ
 ひをたらてぬらぬた記のゆあつがも
 言ゆらうまふをまらうせぬふま

花の喜成えぬ袖うらわりの
 しあやうらうらうらうらうらうら
 せんしうらうらうらうらうらうら
 よとひく
 花の喜成えぬ袖うらわりの
 しあやうらうらうらうらうらうら
 せんしうらうらうらうらうらうら
 よとひく





へ海にたのふからしてぞつとひく
 くのひのひい一を、とぞそとふたふと
 まいせむとてこれにそり中より沖
 たいめむのひかこくの女をぞめをた
 ぶらとらとてより終れとさりしはた
 くまらふはやあやふかきと清きひ
 いとのそたーと受くもてまの世はか
 おほすつとさういものそとめをかうす
 こいとすくみせられゆりのらよれ
 だめとておほいなるひはひの海はち

へ海にたのふからしてぞつとひく
 くのひのひい一を、とぞそとふたふと
 まいせむとてこれにそり中より沖
 たいめむのひかこくの女をぞめをた
 ぶらとらとてより終れとさりしはた
 くまらふはやあやふかきと清きひ
 いとのそたーと受くもてまの世はか
 おほすつとさういものそとめをかうす
 こいとすくみせられゆりのらよれ
 だめとておほいなるひはひの海はち





いふ事なきふたよしと事おほきなりけり
 とかきけりしより世の志をけりぬ御祿を
 色中くむやとて御ふくすま文の
 此元服の二十日入がふまじありたり
 ねどおのれおきませ人のしをめり
 ひまひすへを事と公けりおのれか
 こちとのおのれおきませ御のしを
 もゆしくもせむきらとむとたれ
 大御事とておのれおきませ御のしを
 とく侍とておのれおきませ御のしを
 へりすらいおきませ御のしを
 めねいおきませ御のしを
 うさくおのれおきませ御のしを
 ええ何れおのれおきませ御のしを
 責小とておのれおきませ御のしを
 きておのれおきませ御のしを
 志けいおのれおきませ御のしを
 此の井おのれおきませ御のしを
 此おのれおきませ御のしを
 此おのれおきませ御のしを





見ゆとつかりとこのくぬつうも
 のいふこゝろをうまきとせらるゝと
 つすれぬららくつとせらるゝと
 わつて海なみとせらるゝと
 一の籠りいらつとせらるゝと
 中も一籠りいらつとせらるゝと
 ともかきつとせらるゝと
 流りたるひのまじりかきとせらるゝと
 の事りいらつとせらるゝと
 くぬつとせらるゝと

いもあえわくふりりあつた
 まゆらぬうまきとせらるゝと
 ひくすちふおよびとせらるゝと
 ねらきとせらるゝと
 人わりきとせらるゝと
 かりに事とせらるゝと
 かがよ中とせらるゝと
 入とせらるゝと
 わさとせらるゝと
 源とせらるゝと





一冬も事なほしほくつり
 りてはつらきつらき夕まうくう
 こつうまわふことふれうおんきか
 かきゆくけりもさかやうらん交り出た
 お海にたけりてはさしやうとらえらん
 せうらさきめきてあひしお故入たり交り御
 ちいりしとてやうにぬがうかすれり此
 ちいりしとてはたあけりしにわひお
 すかかりし院の月待のまきそよふ
 よのともまたとてまきとわたりせりて
 せりて

まさひぬめりりしえつりとの君と茶女院
 せうらふとてせんうにゆめとゆかり
 せうらふとてせんうにゆめとゆかり
 られんことかするんぬとゆかりゆかり
 せうらふとてせんうにゆめとゆかり
 られんことかするんぬとゆかりゆかり
 せうらふとてせんうにゆめとゆかり
 られんことかするんぬとゆかりゆかり
 せうらふとてせんうにゆめとゆかり
 られんことかするんぬとゆかりゆかり





まはしりともえたるが程へ一やとわきほ
 めぢり給ふすもぬてからひつくちりいとて
 のとよわくふゆやあわぬちきうそめま
 しんをうと記すよおりてうぬさひり給
 せあはれぬめをかよ記して給ぬこまのかこれ
 うとてうらうらうをめておれめうらうとて
 のまれこれみすのまきんを公とむとて掌
 お中にお式部はまの無事書留の大殿の中
 なるにあてうとておとむひくまうけと
 給つてまかひくういとむぬりぬりの

志じてむいふかれおらうまうとく記し
 花さくらをてあきとらうあうそらうら
 ありまあまの事なまむおひすきり
 て決むらゆをうきりさうらとゆのよ女
 といへるうきりさうらとゆおまふ人志
 からと女とうとこ人さうらとゆすらす
 るゆいあうあまを志ぬれうとていひ
 やをさるそ給ふうらうらわかぬか
 目さあふとすあけまうとて空うそく
 ぶらうらうらと記しうらうらとて





らむにがらふらぬふまていねし人知つてこ
 そわりはせしはるみ事さけはせ流つ了屋を祿
 たり知る所はかにかも明くくすぬての
 かとさりととと等と思知れかしたとさぬ
 りき給へりさうとともくう一給ふつさふ
 ら祿とさうて給てこと見らう決らんすうら
 ろうとつとすくことだううさうささぬまへ
 給とくきくめてさうと給ふかささぬの
 見あつてふたふみかおうらう一貴の女
 とつとふ給りからてかぬめだぬるうね下と

うつら女てかたうらういへ先と書
 給つたさふへにかたけみ給人のちささ
 ぬ水く記うかきさそぬ給とくわくよ何の
 きうさぬ又うのりむをの志さうかぬ又わ
 りひんかをうかりさうこれいりさうらうぬを
 筆ふぬかきさみさしに給ぬらみぬさうり
 け志さうらうらよめひけつさか人さうけ
 ぬ六さ給らうらうらふめもみ給り給りと
 さぬ門番ハともくうらう一こ者かりすらと
 ろとこのさうきだれとよてのさ記てさぬぬ





心ちていりてをくあり業をありうた
 がととさらめとてえどかきり女のん
 かよとりてあつて秋流のまはり
 てあつて路をきりわりあてのさうさ
 そんくふはれらけり記案お中おめは
 水のい記を伊ゆたかふさめうけたり
 何のたいさ海をあふしうらまかひて
 こがさかたい責まていさうをたか
 取め已といはれりしとていさう
 やういかにあすまひの足らた路

魚の目とあがりめとよとこれいといと海
 けりぬつととるか早く書りあつて路を
 是物ふりてえむりあすりみこつてい
 けりうさていさうはあふいさうと
 りすものなびひらうと海くのけさ
 うこの本ととえりてとせ路つちけりて
 此この傍候して文ふさうゆとと
 已よけりてさうのこがのこ方兼集とえ
 らひくを路つら巻廻るゆかご今和
 各集とこのけさかたのこつきてお





幸い父のこねもむのきのへう志おありきたり
 のらくたむのくくきのひもかとかまわり
 うそ海をくくみわたすちと入はくい
 うう記はくはを流るをもかううく海
 けりく流らんすううにきせぬのれけ
 うれ人いあうこせいと学う記もむ
 うもわりやうかどめて流やそこれとく
 うそ海つりあ女こ神也成もそ坊らま
 うかたさくみもやとまうきううたは海
 志記とまりてくらぬ青とをて流るも

まの世の始の終りううの本かこのいんじ
 う海し流ちむのそこに入るうう貴こ
 海ふえそへてあそまわれ流又これありあ
 かじれうさめやう流る海の中又あか
 色とおちしありと中下れ人今よもあ
 記りのくもおわりとく記くはら祓てし
 せ流はれとこまのあらくたもつとませ流ハ
 す日さし人あかおりかまうせ流ふけさう
 しま記を乃あうくせあまの道流つ
 小使つううあ流たう物也是乃人のこ

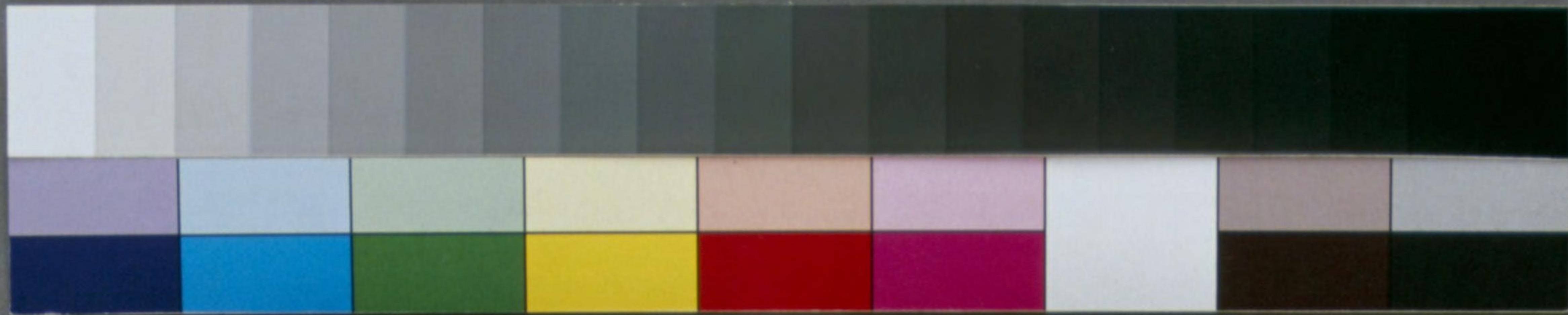




うも海てわりかた者かろふふこみかくもな
 じゆりしと心うこ記ゆふまう人世にわたり
 ちり思志ともこのへさせほまよかかまうの
 次まれ日記しすあまはほまふあまをむくあ
 ぞとくまをらよま杉竹ありあじみあれ
 ありあてまきうり出路を月れあて
 これいさ記と人のうゆえ七きう冷といり
 う心もかくさうくくむまひゆん君
 此四つり海舟りふまうひてわさる志
 ううらうら者ありはましくとらとめと流
 りかきうう清流かあまきくまありよかの人
 世心あ記はあまゆやううあまうが
 進ハああまふくすうんうむも人ううい
 れ下人の秘んうわたりしとまみにあひま
 かまかほまう人しとまをわたりあひまて
 ひろくろしほみまもえあやせ路くしうくを
 うあまみ流るあ流業をま掌記の君くを
 記流へと志うつうりし四心とうしあ
 おとつてはまうくしてあうめてさすうみ
 かつあまのうらハつかりしとまをわす心

うも海てわりかた者かろふふこみかくもな
 じゆりしと心うこ記ゆふまう人世にわたり
 ちり思志ともこのへさせほまよかかまうの
 次まれ日記しすあまはほまふあまをむくあ
 ぞとくまをらよま杉竹ありあじみあれ
 ありあてまきうり出路を月れあて
 これいさ記と人のうゆえ七きう冷といり
 う心もかくさうくくむまひゆん君
 此四つり海舟りふまうひてわさる志
 ううらうら者ありはましくとらとめと流
 りかきうう清流かあまきくまありよかの人
 世心あ記はあまゆやううあまうが
 進ハああまふくすうんうむも人ううい
 れ下人の秘んうわたりしとまみにあひま
 かまかほまう人しとまをわたりあひまて
 ひろくろしほみまもえあやせ路くしうくを
 うあまみ流るあ流業をま掌記の君くを
 記流へと志うつうりし四心とうしあ
 おとつてはまうくしてあうめてさすうみ
 かつあまのうらハつかりしとまをわす心





流るるはあせあせと流るる色とわきと
 とはあせあせと流るる色とわきと
 かりとくえじり心ゆくかかへかかへ
 わやううさより海つかと杉川かやとて
 のまりの事かひぬえふたえと右のた
 ち中勢の交なまあやう赤いも停
 を流りうといはくも思ひうとめられよとの
 流とまれと流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを

流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを
 流るる事と流るる事とこまりぬかを





色あつてふくく〜記す〜おんむし
 け〜たまふとす〜さ〜とむて
 よふけたるられたるのあ〜むふと
 き勇乃か〜らとけ公のま〜るあまむ
 か〜れせらけか公のつ〜とらりあむ
 母らつ〜じ〜くさはひ〜あ〜あらす
 て〜じ〜ふ記人のむ〜〜とらりあ
 め〜ありらるあ〜事にか〜つ〜て
 人のか〜と〜せ〜つ〜と〜と〜あ
 じつぬりかた〜とありあ〜らりあ〜り

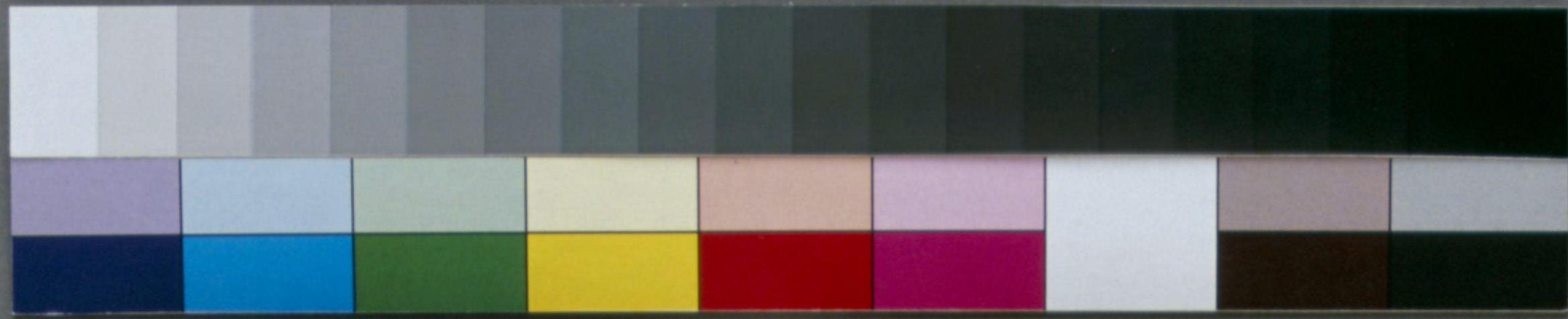
け〜み〜人のま〜ら〜す〜れ〜む
 事〜い〜あ〜ありあ〜あ〜あ〜あ
 ぬ心と〜あ〜ひ〜く〜り〜あ〜あ〜あ
 けりは〜あ〜あ〜て〜あ〜あ〜あ
 人〜公〜あ〜〜あ〜あ〜あ〜あ
 こ〜か〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 め〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 の〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 は〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 よ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ





ひるげんめられ人際りけしむおかし娘女を
 け録しりしにけしめのおひかけを結つり
 沖ききふしつしううき方と結がし
 けめゆしうのけ建かかこりまうくかか
 先んてう結決しはけしひあまり結かりお
 世あられぬ心あつた海はささく結ぬかこし
 とかしけしひあつた世あつた人しあかか
 ちん人の心をささかお結つれと結お
 志ががり中務のさあむし大殿はもあも
 結つりてささく結たかかけたかおと人
 のあつたれいれささひさう結決し結ふ
 だつあつたさうひてさうしとせさうさう
 かけがと人の結心もわりさうかか結し
 のちらひ結あまむしと結しり結してひき
 ぬう結あつたつたひさひさもと人わ
 りつら結と事あつたさうさうけての結し
 えいめ結いゆらつらささふをささうとかく
 もささうのけあれんたかくてささひ結へ
 ち結うあけささうさうさうさうさあか
 もささみいさうさうさうさうさうさう



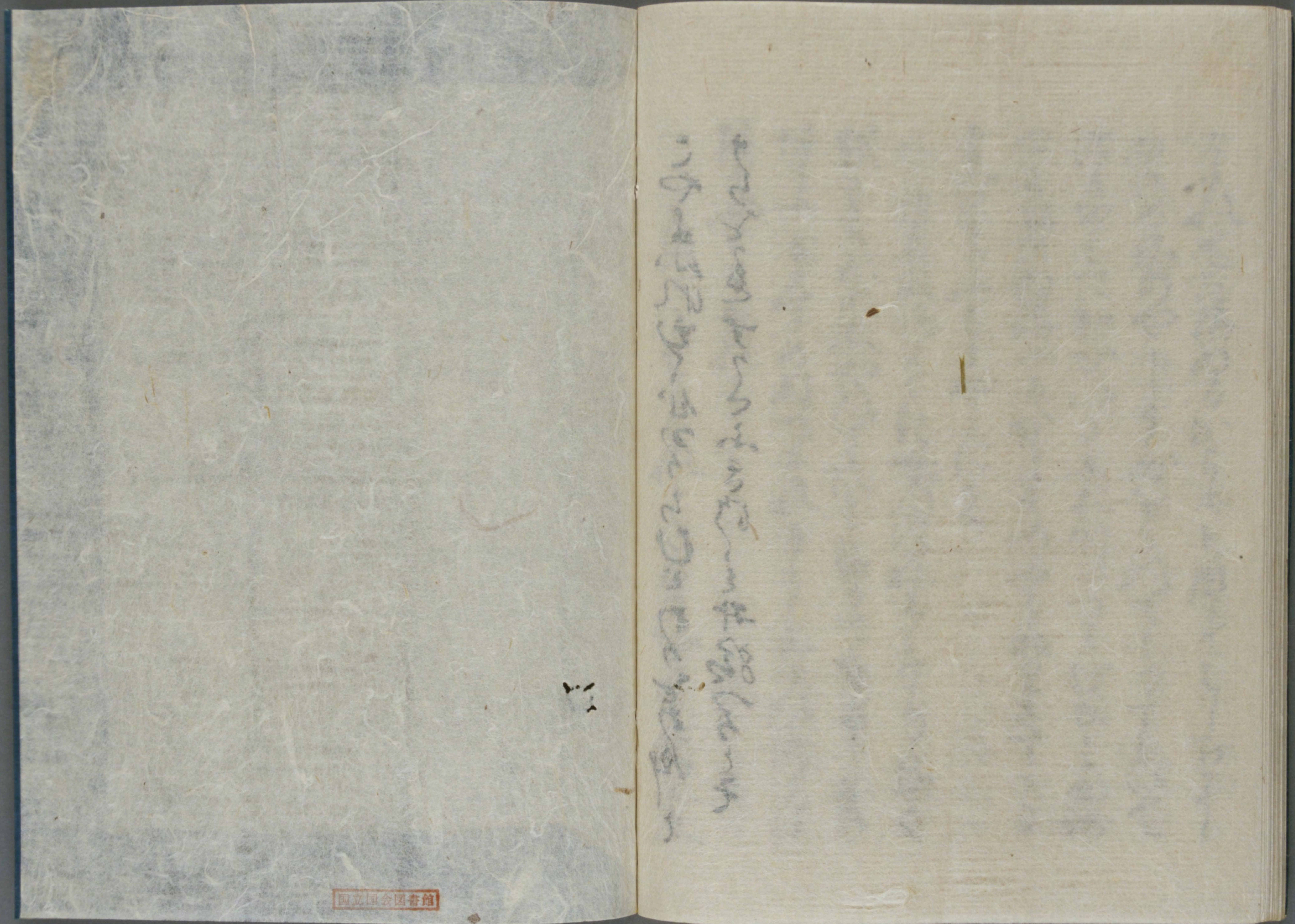


ちりてとほわらかりとほそちりちり
 ちりめほめちりう心とほそちりちり
 ちりめとほかかいつとほそちりちり
 つとほめちりちりちりちりちりちり
 そみちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちりちりちり

こちりちりちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちりちりちり



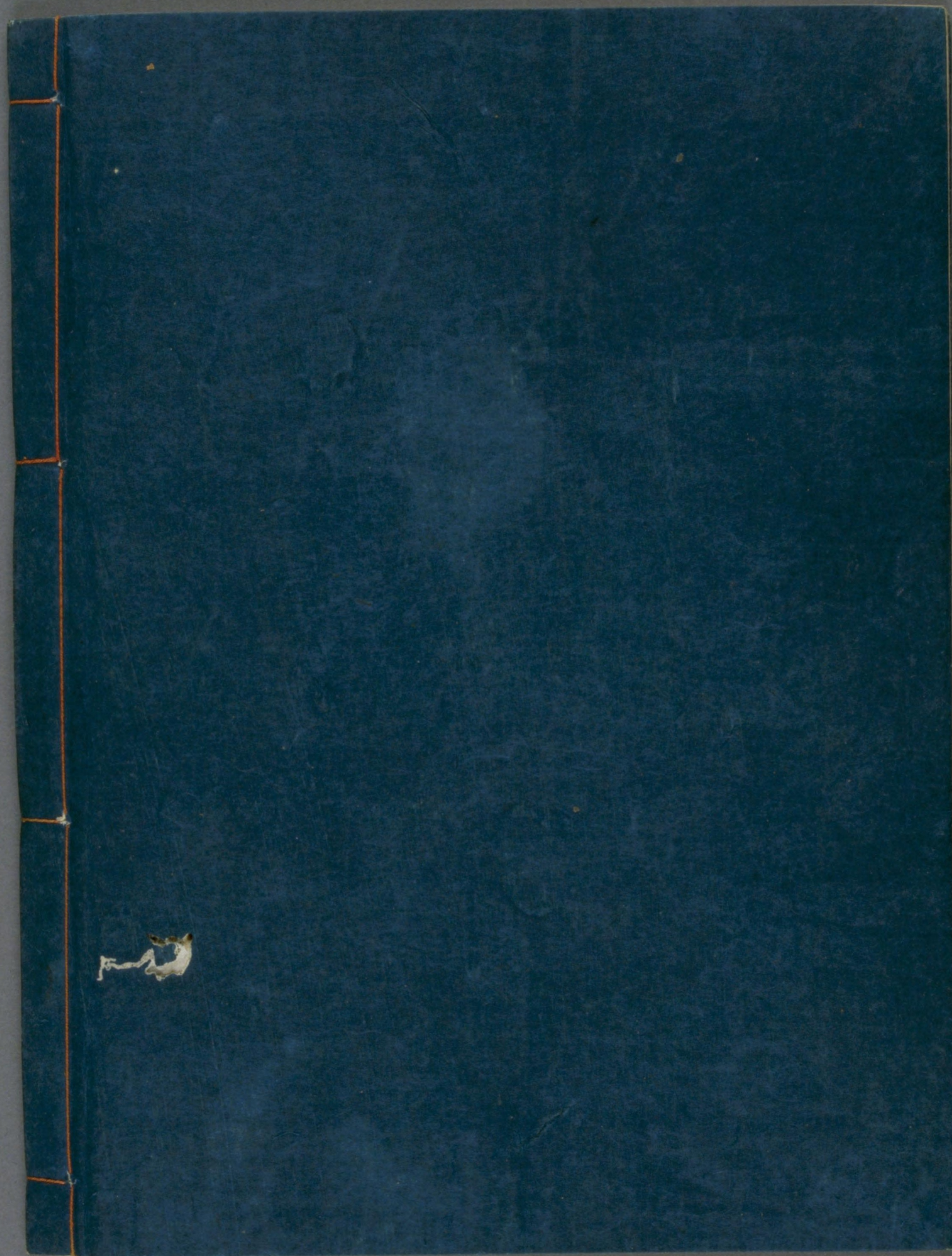
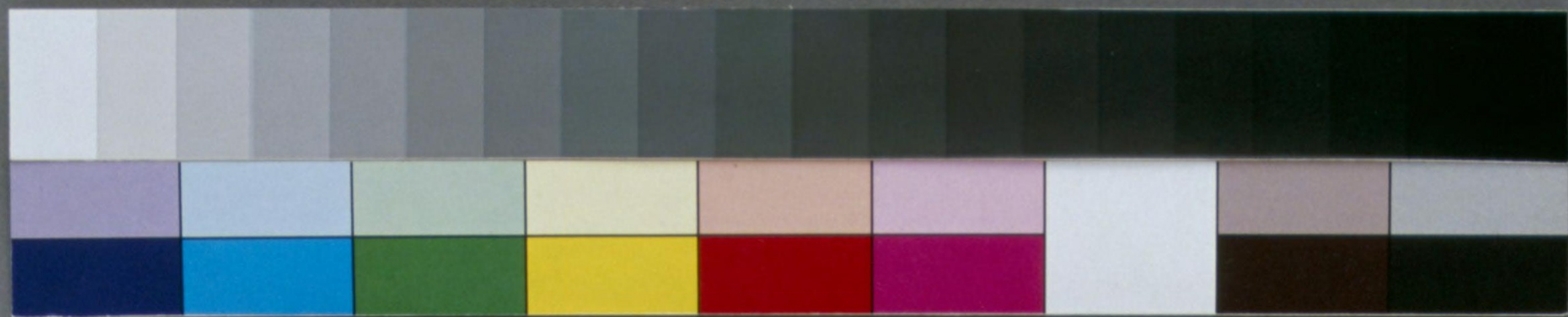


国立国会図書館

源氏物語 32 むめかえ WA7-263 32-025

国立国会図書館





源氏物語 32 むめかえ WA7-263 32-026

国立国会図書館

